

地域ビジネス創出事業 (Social Business Project、略称:SBP)



地方創生、地域振興の観点から、高校生が地域の大人と共にソーシャルビジネス(※)の展開により、地域の課題解決を目指す取組。

具体的には、高校生らが地域資源を知り、見直し、活用して“まちづくり”や“ビジネス”を提案し、その取組を、地域で応援し支えていくもの。

三重県多気町にある相可(おうか)高等学校食物調理科調理クラブが運営する高校生レストラン「まごの店」等を先進事例に、平成25年4月に三重県立南伊勢高等学校南勢校舎で最初のSBPが立ち上がり、現在、同様の取組が全国に広がっている。

※ソーシャルビジネス:社会的課題への取組を、継続的な事業活動として進めていくこと。地域の自立的支援や雇用創出につながる活動として有望視されている。(小学館デジタル大辞泉より)

文部科学省は、平成30年8月に三重県伊勢市で行われた「第3回全国高校生SBP交流フェア」を共催した。(主催:一般社団法人未来の大人応援プロジェクト)

具体的なSBPの取り組み方を学ぶオンライン講座の開講。

一般社団法人未来の大人応援プロジェクトと株式会社ドコモgaccoは、ドコモgaccoの運営するIT環境があれば誰でも無料で受講できる大規模公開オンライン講座「gacco®(ガッコ)」にて、「ソーシャル・ビジネス・プロジェクト(SBP)」に挑戦する高校生を応援する「地方創生に若い力を！高校生ソーシャルビジネス(SBP)という挑戦」講座を12月4日(火)より開講予定。文部科学省は、この取組を応援している。

【学習期間:4週間程度(週1時間程度)】

- 第1週 SBPとは
- 第2週 SBPの成功事例に学ぶ
- 第3週 SBPにチャレンジしてみよう
- 第4週 未来へ羽ばたく君たちへ

申込は➡ <https://lms.gacco.org/courses/course-v1:gacco+pt021+201812/about>

第3回 全国高校生SBP交流フェア(8/17-18) 参加地域



図及び写真の出典:「未来の大人応援プロジェクト」HPより

「全国高校生SBP交流フェア」受賞事例

文部科学大臣賞

浜松学芸中学校・高等学校 「浜松注染 浴衣プロジェクト」

浜松学芸中学校・高等学校（静岡県）

はままつ胸キュンプロジェクト 第4弾

「浜松注染 浴衣プロジェクト」

私たちの浜松学芸中学校・高等学校は、静岡県浜松市の中心部にある芸術科を有する中高一貫校です。高校は、学力と人間性を伸ばす普通科と、美術・書道や音楽・電子音楽の4つの課程からなる芸術科があり、学と芸を融合した学校です。

私たちは、4年前から、地域の魅力の発信や課題の解決に取り組む地域調査活動を行ってきました。この活動を「胸キュンプロジェクト」と命名し、浜松市の公認活動として任命されるまでに発展しました。今回は、地元注染浴衣の魅力発信のために「浴衣プロジェクト」の活動を立ち上げ、地域の浴衣メーカーと協働してポスターやカタログフォトブックの制作を受注しました。より多くの方に着用してもらえるよう、自分たちの活動である「胸キュンポスター」の要素をふんだんに盛り込みました。さらに、注染浴衣の生地を使い、パートナーオーダーシャツのブランドを立ち上げ、注染浴衣をもっと日常に取り入れる仕組みを考えました。今後、このシャツブランドの拡大に挑戦したいと考えています。浜松の魅力を世界に発信する私たちの活動は、まだまだ続きます。



<第3回全国高校生SBP交流フェア 開催概要>

開催日時:平成30年8月17日(金)~18日(土)

開催場所:三重県伊勢市(皇学館大学キャンパス) 他

参加者:28団体、350名(生徒約220名、関係者等約130名)

※「全国高校生SBP交流フェア」参加校紹介より抜粋

第3回 全国高校生SBP交流フェア

文部科学省は、平成30年8月に三重県伊勢市で行われた「全国高校生SBP交流フェア」を共催した。

三重県知事賞

中部大学春日丘高等学校 「IAC(いっぱいありがとうカンパニー)」

中部大学春日丘高等学校（愛知県）

インターアクトクラブ

目の前の人の笑顔のために

私たち中部大学春日丘高校インターアクトクラブは部員数約65名、年間活動数は300回と超えるボランティアを行う部活動です。主な活動場所は障害者施設、高齢者施設、児童養護施設、学童保育、また地域のお祭りなどです。活動内容は手遊びや体遊び、療育、工作教室、お祭りの運営、東北支援商品や障害者就労支援商品の販売、フェアトレード商品の販売、ゲームコーナーの出店、ダンスパフォーマンスというように、多様な活動を行っています。

今までの活動を通して、利用者さんからたくさんのありがとうの言葉をもらいました。しかし、利用者さんはありがとうを言われる機会が少ないということに気づきました。利用者さんの本当の意味でのありがとうを届けたい。そんな思いからいっぱいありがとうカンパニーは始まりました。

お手玉やメモ帳などの利用者さんから作ってもらい、それを地域のイベントで販売します。その売り上げで、利用者さんが必要な物を購入してお返しします。また、一部商品は子育て支援施設などにプレゼントし、利用者さんと児童との交流の橋渡しとします。



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN